

1. 序論

筆者は、二つの背景から今回のテーマを着想した。一つ目は、留学の経験から、国が異なることで文化や考え方に大きな違いがあることに興味を持ったため。二つ目は、言葉がどのように人の脳で色として認識されているか知りたいと考えたためである。例えば“太陽=赤”のように、日本人の固定概念から、そのような認識をするケースが多くあると考えられる。しかし、海外では、文化や環境によって、その認識が異なる可能性があると考えられた。そこで本研究では、様々な国の考え方と言葉から連想される色彩を調査し、結果から考察される、日本と他国の特徴を明らかにしたいと考えた。

2. 調査方法

対象国は日本、中国、韓国、タイ、北米（アメリカ・カナダ）の5か国（地域）とし、その言葉から連想される色を、回答してもらった。

同じ色を、何度も使用してもよいこととし、以下の単語から連想される色を回答させた。

甘い、愛、誕生日、家族、過去、未来、地球、笑顔、積極的、純粹、優雅、冒険、誠実、健康、美貌、保守的、空想、不思議、情熱、勇気、気品、平和、母性、太陽、主役、信頼、真面目、親切、有名、楽しい、宝物、友情

3. 結果

まず、キーワードから連想される色を国ごとに集計し、特定の色に意見が集中した言葉を選んだ。次にその色を国際的に比較し、意見がよく一致した言葉と、そうでない言葉を次の表にまとめた。

表 1. 国際的に連想される色が一致した言葉

甘い	愛	過去	地球	笑顔	純粹	優雅
冒険	健康	美貌	情熱	勇気	宝物	

表 2. 国際的に連想される色が一致しなかった言葉

誕生日	積極的	家族	未来	誠実	友情
保守的	真面目	気品	平和	母性	主役
不思議	楽しい	親切	有名	太陽	信頼

全体的に色が一致しなかった言葉が多くなったことから、国によって考え方が違うことがわかる。これには、環境や文化が関わっていると考えられる大変興味深い結果である。ここで、「誕生日」、「家族」、「平和」、「母性」、「友情」に注目した。これらの言葉は、周囲の人や環境が関係している。各国の誕生日の過ごし方に注目してみると、中国では麺を必ず食べ、主役が御馳走する。韓国では、わかめスープを必ず飲む。タイでは、お世話になっている方のおもてなしをする日といわれ、日頃の感謝を伝える。アメリカでは主役がパーティーを開き、友人を招待し祝ってもらう。日本では主役は祝ってもらい御馳走もしてもらう。このように、国によって習慣が異なる。これらの影響から、回答された色も異なると考えられた。

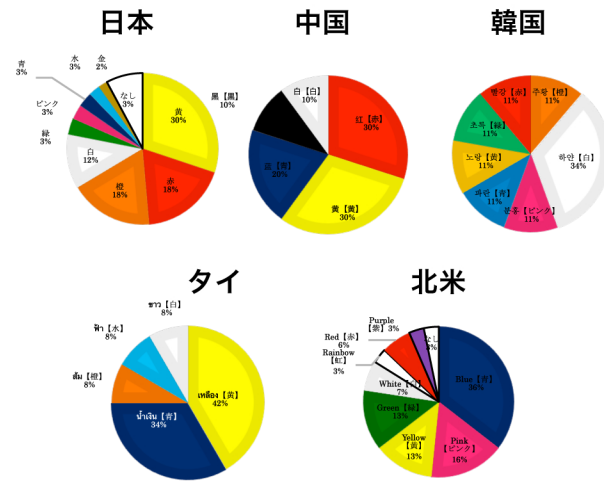


図.1 「誕生日」から連想される色彩の5か国での比較

4. 総括

5か国（地域）の言葉から見える色彩の国際比較から、各国の特徴が浮かび上がった。また、全体的に赤が多く挙げられた。5か国の国旗を見ると、各国とも必ず赤が取り入れられていることが分かる。赤に対しての伝統や歴史が多い事もこの影響が大きく関わっていると考えられる。

謝辞

作品制作を行うにあたり終始熱心にご指導を頂いた榎本春榮先生に心よりお礼申し上げます。

